

Screening for Neurodevelopmental Disorders in Japanese 18-and 36-Month Health Check-Ups: Utility and Reproducibility of the ESSENCE-Q

日本の18か月および36か月健診における神経発達症のスクリーニング：ESSENCE-Qの有用性と再現性

執筆者

Yuhei Hatakenaka, Koutaro Hachiya, Christopher Gillberg

概要

【目的】

ESSENCE Questionnaire (ESSENCE-Q)は、適時な介入につなげるための、複数の発達領域にわたる神経発達症の早期徴候の発見に役立つ。我々は、日本の18か月および36か月乳幼児を対象に、ESSENCE-Qの実現可能性、信頼性、精度、および再現性を評価した。

【方法】

18か月および/または36か月健診を受けた1373名の子どもの縦断的なデータを分析した。ESSENCE-Qは母親(ESSENCE-Q-M)、保健師(ESSENCE-Q-N)、心理士(ESSENCE-Q-P)によってそれぞれ独立して記入された。その有効性はROC曲線を用いて評価され、最適なカットオフ値が設定された。

【結果】

全体の神経発達症の有病率は11.2%であった。ESSENCE-Qの内的整合性は良好であった。ESSENCE-Q-Pは18か月において最も高い性能を示した。ESSENCE-Q-NおよびESSENCE-Q-Pは36か月において非常に優れた性能を示した。ESSENCE-Q-Mは単独での使用には適していなかった。

【結論】

ESSENCE-Qは、18か月および36か月健診において、専門家向けのスクリーニングツールとして非常に有用で再現性が高い。母親が記入するESSENCE-Qは専門家の評価を補足すべきである。

キーワード：早期スクリーニング；神経発達の診察が必要になる早期徴候症候群（ESSENCE）；ESSENCE質問票（ESSENCE-Q）；神経発達症；健康診査